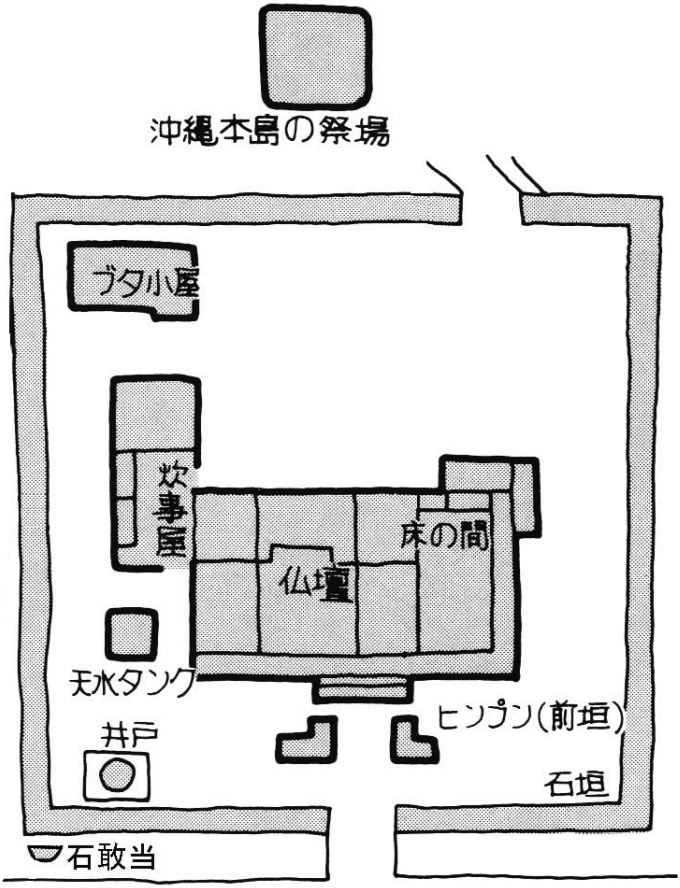
沖縄県 石垣島の家

沖縄本島よりもさらに南にある 南西諸島は、亜熱帯の島じまからなります。そのひとつである石垣島に、1871 年ごろ、琉球 国 時代の 士族の住まいとして建てられた家を 移築しました。



沖縄県 沖縄本島の 祭場

アサギと呼ばれる 村落共同 の祭場。毎年 旧暦 の 7 月には 豊作 や 繁栄 をもたらすニレー神を迎える 海人祭 が、女性たちだけで 催 されます。

気候と住まい：台風とともに暮らす

毎年７月から10月までに何度も台風におそわれる石垣島の家には、いくつかの暴風対策の工夫がこらされています。

① 豊富に採れるサンゴ石で石垣を高く積みあげる。
風が直接、家に吹きつけないようにという工夫です。

② 庭に防風林を植える。
同じく、家に吹きつける風を少しでも弱めるための工夫です。

③ 屋根瓦をしっくいで固める。
屋根が風で吹き飛ばされないように“重し”の役目をもつ屋根瓦、この石垣島の家では平瓦（1 枚 1.3kg）と丸瓦（1 枚 1.9kg）を組み合わせ、およそ１万７千枚、25t もの瓦を使っています。さらに、瓦をしっくいで塗り固めて、おさえています。

④ 母屋の柱をふやし、軒を低くする。
「石垣島の家」と「山形 月山 山麓の家」とはおおよそ同じ面積ですが、石垣島の家の柱は 102 本、山形の家柱は 74 本とかなり違います。柱の数が多いのは、重い屋根をしっかりと支えるためです。軒下の高さは石垣島の家が 270 ㎝で、山形の家は 430 ㎝もあります。軒が低いことで、風は家の壁ではなく屋根の上を吹き飛んでいきます。

台風による被害を抑えるために、石垣島の人たちはいろいろな工夫をしてきましたが、まったく台風が来なくても、石垣島の人たちは困ってしまいます。この家の元の持ち主は、「井戸水は塩分があって飲めないからね」と言い、1953 年に水道が引かれるまで、屋根にふった雨水を天水タンクにためて飲料水に用いていた苦労を語ってくれました。台風は大量の真水をもたらしてくれる天からの恵みでもあるのです。